

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 7月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100273
法人名	有限会社 えにし
事業所名	グループホーム ほのか
所在地	群馬県安中市原市1303-1 (電 話) 027-380-2272
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年 6月11日

【情報提供票より】19年4月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 5人 非常勤 7人 常勤換算7,4人

(2)建物概要

建物構造	(木造) 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(4 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 82 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	碓氷病院. 須藤病院. 半田内科医院. 半田歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『毎日を自分らしく、自由に笑顔で楽しく過ごす憩いの場所』と運営理念を掲げて管理者・職員は共有しケアの質の向上を目指し日々、工夫をしている。利用者一人ひとりの要望や希望に応えるように職員は家族、地域の方の協力の下で、その人らしく暮らせるように支援をしている。家庭で生活を送っているようにホームの生活でも、利用者と職員が楽しみながら、穏やかに自由にのんびりと送ることができるように取り組んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の揭示は利用者、家族、訪問者に分かりやすく、見やすく改善がなされていた。緊急時の手当てについては、看護職から勉強会が積み重ねられ観察や手当てが行えるようになってきているが、外部の救急救命講習を介護が受講されるとさらに良いのではないかと。入浴については利用者の生活習慣を重視し、回数や時間帯を考慮し入浴支援の取り組みが行なわれている。地域との交流はホーム側から積極的に地域に出向き交流を深める取り組みがされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価を日々のケアの見直しをする良い機会と考えて、全職員で担当し記入をし、各自が持ち寄り意見交換を行い作成をするように取り組んだ。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では運営理念、運営に関すること、利用者の状況、外部評価の報告などを行い、災害対策に関しては近隣者へ協力依頼をしている。また、出席者からの意見や要望をホーム運営に活かしている。市には疑問点や判断ができかねること等については気軽に窓口に出向いて行き、指導や助言をもらうように連携を蜜にしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時や運営推進会議の場、あるいはホーム便りで個別に一言添えてご意見や要望、苦情等を聞き、全職員で話し合いを行いホーム運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、ホーム側から積極的に地域に働きかけ、地域の祭りや行事に参加している。個別でも公民館活動や母子会への参加を通して、地域との交流が継続されるような支援をしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義は全職員で確認し、地域生活の継続支援を重視し、自らの家庭のように変化がないように支援をしている。	○	地域とのつながりを重視して生活支援を行っている。この事を職員と話し合い、地域を意識し運営理念を見直すことの取り組みとしてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は運営理念を共有し、月1回の職員会議で運営理念に基づき生活支援が実践されているか話し合いをしている。理念の実現にご家族の協力体制も得られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域のお祭りや行事には積極的に参加をしている。個別には公民館活動や母子会などに参加し、地域の方の協力で継続的な交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果を伝え、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、活動状況、職員関係の運営報告、評価への取り組み等の報告を行い、出席者から意見や要望をもらいホーム運営に活かすよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にホームの実情や方針、ケアサービスについて説明を行っている。対応が困難な事例については、市の窓口を訪れ相談をし、助言や指導をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日頃の暮らしぶりを報告し、個別の記録を読んでもらったり、ホーム内に掲示してあるスナップ写真等を見てもらったりしている。ホーム便りを発行しており、個別の便りに近況を一言添える等の工夫をする取り組みをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で意見や要望を聞き、職員会議で協議した結果の報告を行っている。意見箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員の対応は重要と考えており、新しい職員を採用した時は、利用者に紹介し、馴染みの関係を築くことができるように関わりを多く持つようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時には、利用者の状況を把握しながら馴染みの関係を築くことに重点を置いている。経験や資格等に応じて段階的に研修を計画している。資格取得には支援をしている。	○	利用者の重度化や終末期に向けた支援の方針があるので、体制としては看護師がいることで対応は速やかに行なわれると推測される。一方、チームケアで利用者を支えることを考えれば、介護職も救急救命講習受講の取り組みをしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、交流や情報交換、各種の研修会に参加している。他のグループホームと合同のお花見をしたり、近隣のホームの訪問を受けたり、一緒にお茶をしながら楽しいひと時を過ごしたりと、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ホームで一緒に過ごしたり、行事への参加を誘う等の機会を作っている。入居当初は特に家族や友人の面会を多くしたり、自宅への外泊機会を設けたりと、ホームでの生活や雰囲気に馴染めるようにご家族と相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日常の中で利用者から教えてもらう場面が多くある。支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協力しながら和やかな生活が送れる場面や言葉かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握し、なるべく本人の意向を尊重した生活が送れるように努力している。利用者によってダンスを習いに行くなど、仲間との交流が継続できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人、家族の要望を聞き、職員全員で意見交換を行い反映をさせている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、利用者の状態の変化や状況、家族、本人の要望に応じた見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時には利用者の状態の情報を家族に渡し、かかりつけ医に見てもらうようにしている。受診結果については家族から報告をもらっている。基本的には家族同行の受診になっているが、状況によってホーム側で柔軟な対応もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に対するホームの方針を説明している。入院が必要となる場合には、病院の希望も聞いている。重度化し終末期を迎えるぎりぎりのラインまでは家族と話し合い、医療との協力体制で支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を重視し、プライバシーの確保や個人情報の保護は、慎重に徹底して行うように努めている。職員教育も十分に行い文章化をしている。	○	食事摂取困難な利用者の口腔リハビリや食事支援の時には、他の利用者に直視されない環境への配慮の取り組みを検討してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を大切に、買い物や散歩、嗜好等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に採ってきた自家菜園の野菜の下ごしらえ、調理、盛り付け、片付け等も利用者と一緒に行い、職員と利用者と同じテーブルを囲みさり気なくサポートを行いながら、楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週4日の設定をしているが、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴が楽しめるように支援をしている。毎月近くの日帰り温泉に出かけ楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとりの経験や知恵が発揮できる場面づくりを行い役割や楽しみを持ってもらえるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性につながるように日常的に散歩や買い物に出かけている。本人の希望に応じ公民館活動(ダンスや短歌会)への参加等、一人ひとりの希望に添って支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は一人ひとりのその日の状態をキャッチする見守りとチャイムの設置等で、日中は玄関の鍵をかけずに安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と職員で防災避難訓練を行っている。運営推進会議や近隣者へも協力を依頼している。消防署から消火訓練や避難誘導時の注意や助言をもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日チェックし記録を行い、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音もなく自然光が多くそそがれるように配慮し、犬も飼われているが、不快な臭気もない環境になっている。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談をしながら使い慣れた物や馴染みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		